



BE THE INSPIRATION

国際ロータリー 第2570地区 第2グループ

志木ロータリークラブ

2018-19年度 国際ロータリー会長 バリー・ラシン 「BE THE INSPIRATION—インスピレーションになろう」
 2018-19年度 第2570地区ガバナー 茂木 正 「想いを繋ぎ地域と国の発展に奉仕する」
 2018-19年度 志木RC会長 林 康雄 「凛として挑む 一 衆の目的を 目指し」

第2259回 例会

2018-12-5

- ◎司会 高橋健一郎 副会長
- ◎点鐘 林 康雄 会長
- ◎ソング 君が代・奉仕の理想
- ◎ソングリーダー 内山雄二郎 会員
- ◎四つのテスト 内山雄二郎 会員
- ◎ビジター 栗山 昇 様 (朝霞 RC)



「会長挨拶」

会長 林 康雄

11月27日(火)に開催された第3回第二グループ会長幹事会の様子を報告致します。森田第二グループガバナー補佐からの報告では、第2570地区では未だに、ガバナーエレクトが選出されていないこと、これにより、ロータリー財団の補助金支給が凍結されているため、茂木ガバナーの肝いりで企画された、グローバル補助金を活用した職業研修チームによるパラオ共和国へ医師団を派遣するプロジェクトを中止することに決定したということでした。来年の2月16日(土)に第二グループのIMがベルセゾンにおいて開催されることが決まっております。テーマは「想いを繋ぐ」実施内容は、上田埼玉県知事の基調講演とオリンピックへの想いを繋ぐものを基軸として次回の会長幹事会で詳細を決定する予定です。

さて、12月のロータリー月間テーマは「疾病予防と治療」です。そこで、昼食の時間帯に申し訳ありませんが、「臭い話」を「清々しい話」にした「トイレの話」をしたいと思っております。

世界ではいまだ、3人にひとりがトイレを使えていないそうです。トイレがない人たちは、道端や草むらなど、屋外で用を足します。その数は8億9,200万人とされています。

屋外排泄をすることによって、排泄物に含まれる病原菌が人の手やハエなどの虫、川、地面などを介して人の口に入り、下痢やかぜなどをはじめ様々な病気をひきおこします。ポリオの感染もそうです。排泄物には病気を引き起こす細菌がたくさん含まれているのです。トイレがない所では、細菌たちが様々なところから体内に侵入。それが原因で、免疫力の弱い子どもたちは下痢を発症し、世界では1日に800人以上が、命を落としていると言われています。また、「用を足している姿を人に見られるかもしれない」という不安は、特に思春期を迎えた女の子には切実な問題です。学校にトイレがないために学校を休む。そのうちに授業が分からなくなり学校を辞める。トイレは教育にも大きな影響を及ぼしています。実際にユニセフの報告では、アフリ

カの女の子の10人にひとり、トイレがないという理由から生理中は学校を休むことや、退学してしまうという調査結果もあります。誰でもトイレをしている姿は、人には見られたくないものです。清潔なトイレで人目に触れず、安心して用を足せる環境づくりをすることが、一人ひとりの尊厳を守ることに繋がることになるのです。

そんなことに着目して、人々の生活改善と疾病予防にロータリークラブが一役買った活動事例を紹介させていただきます。

題して「あっちのほう」から「ここ」へ
【人びとの生活を変えるトイレ】

フィリピンの農村部に暮らす人に「トイレはどこ？」と聞けば、どの方向ともなくあごをしゃくって「あっちのほう」と言うでしょう。これはなぜかという、村人たちはどこでもひと気がないところで用を足しているからです。女性はたいてい、のぞき見されたり襲われたりしないように遠くまで行かなくてははいけません。実際、地元の医療関係者に屋外で排泄するリスクについて聞くと、寄生虫や最近への感染リスクだけでなく、女性が嫌がらせをうけたりいたずらされたりするリスクが高いことも教えてくれます。

2013年11月に、フィリピンのレイテ州に未曾有の大型台風「ハイヤン」が上陸しました。被災者2500万人、死亡者6000名近くと、島全体で大きな被害が出ました。その直後には各国のロータリークラブが救援にかけつけてくれました。地元のクラブは食料を提供し、NGOと連携して住宅再建にとりかかりました。緊急に必要な救援物資が人びとに届けられると、次に問題になったのは水供給の復旧とトイレ施設の建設において、いかに衛生条件を満たすかでした。

オルモックベイ・ロータリークラブは、WAND財団なら、NGO各団体と連携して、台風直撃直後のフィリピンのサマール州で2万基の仮設トイレを設置できると判断しました。WAND財団は、かつてスウェーデンのマ

ルメインターナショナル・ロータリークラブと連絡を取り合ったことがあり、イタリアで開催された第8回多クラブ合同ワークショップでこのプロジェクトを提案するのは自然な流れでした。この提案が認められてグローバル補助金が申請され、2016年2月に承認が下りました。

イタリア、フィリピン、スウェーデンから7つのロータリークラブと3つの地区が、この52,000米ドルのプロジェクトに参加しました。活動内容は、各地の村や地区でトイレ222基、雨水集水器6台、共同手洗い所7カ所、バイオサンド・フィルター浄水器20台を設置し、地域社会の人びとのために地域主導の研修会も実施しました。その結果、1100名近い人びとが適切なトイレ施設を使えるようになり、600名近くがきれいな水を毎日使えるようになりました。研修会では、グループ討論や、水の汚染を防ぐトイレの使い方と水・衛生の健康面への影響を教えるワークショップが行われました。また、不衛生による病気の治療にかかる高額な費用について理解してもらうために、屋外排泄のリスクも話し合いました。うれしいことに、このプロジェクト以来、この地域では寄生虫感染や下痢性感染が一例も報告されていません。今では、「トイレはどこ？」と聞けば、人びとは誇らしげに「ここだよ！」と答えてくれます。

筆：Clem van den Bersselaar オルモック
ベイ・ロータリークラブ会員(フィリピン)
(RI日本事務局リソースより)

「幹事報告」

幹事 市之瀬正靖

1. ロータリーの友事務所より報告書受信(回覧)
2. 志木ロータリークラブより第3回会長・幹事会の議事録及び収支報告書受信
3. 比国育英会バギオ基金より2017年度事業報告書の送付と基金への寄付の願い受信
4. 志木市川と街をきれいにする運動推進協議会より「川・街エクスプレス」受信

「本日のお客様」



栗山 昇様(朝霞RC)



クラブの歴史や目的、活動に関する情報提供など出来るはずもなく、ましてや会員の特典や責務を語ることは大変おこがましいことだと思っており、この場に立たせていただいている今も何をお話しさせていただくか迷っております。

ですが、せっかく与えていただいた機会です。今素直に感じていることを、皆様にお伝えさせていただきたいと存じます。

ロータリークラブに入会させていただく以前は、ロータリークラブがどんな組織で、何を目的に活動されている団体なのか？父親が所属している団体との認識しかなく、もっと素直に申し上げれば、興味すらありませんでした。

私とロータリークラブとの最初の接点は、19歳の時、我が家で交換留学生をお預かりしたことです。最初の留学生との出会いはアメリカ・オハイオ州から来た JAY SMITH 君(現在は結婚されてフォッファー姓)。年齢も近いし、ともに音楽が好きですぐに意気投合しました。彼は非常に優秀で、日本語をきちんと話すことはもちろんのこと、漢字にとっても興味があり、いつも漢字ドリルを駆使して勉強をしていました。学校では剣道部に入部し、勉強だけでなく、日本の文化を理解しようと何事にも前向きだったことがとても印象的です。その後も何人かの留学生をホームステイで受け入れましたが、共通して言えることは皆さん知的好奇心が旺盛で勉学優秀なことです。ロータリークラブの交換留学生はさすが

「ご夫人とご家族への感謝の日」

親睦活動委員会 委員長 影山和良

いつもロータリー活動にご協力いただいているご夫人とご家族へ感謝の印を贈ります。

- 4日 上野 幸子様 11日 國分 めぐみ様
- 21日 内山 薫様 24日 西浦 美紀様

「目黒様 40年の感謝」

会長 林 康雄



いつもお世話になっています。今後も宜しくお願いします。

「卓 話」

「ロータリーについて」

R 情報委員会 委員 西川和人

今月のロータリー情報の担当を仰せつかりました西川です。今年度のはじめ、尾崎委員長より R 情報委員として、情報提供をするようにと仰せつかりました。

が、入会 3 年目の私に皆様にロータリーク

例会に変更になる場合があります。ご確認下さい。

■新座 RC (木) 12:30~13:30 ベルセゾン

■和光 RC (月) 12:30~

郵便事業(株)和光支店3F

第2グループ各RC 例会日・会場一覧

事務局 048-473-7041

事務局 048-465-0088

2259-3◇

志木 RC 会報

だなあと感じました。

そんな中、一点考えさせられたことは、受け入れ先の学校での彼らの置かれた状況です。

ある留学生は、日本の高校生はとても幼く、一緒に居ても学ぶ事が少ないと感じると言われた時は私が彼らに出来ることがなく、何よりショックでした。だから学校の友人が少ない。これはとても残念なことです。日本の高校で学ぶせつかくの機会なのに、留学生だけのコミュニティを作ってしまう、地域での人間関係を作る機会が無くなってしまいうように感じました。

今後も志木クラブで留学生を受け入れる機会があると思いますが、受け入れの家庭の状況や、受け入れ先の学校のこと、一番には留学生自身の留学プログラムへの取り組み姿勢等、様々な課題が挙げられると考えますが、このエクステンジブプログラムが有意義に、かつ永続的に取り組むのであるならば、志木クラブ全体で考えることが必要だと感じます。

話は変わりますが、留学生と共に参加したある会合で、時のガバナーにお会いする機会がありました。その時の印象はとても上品で礼儀正しい方、さすがはロータリークラブ、こんな魅力のある方がたくさんいらっしゃるクラブだから、優秀な留学生が集まるのだと素直に思いました。これもロータリーの魅力の一つだと感じます。

さて、そろそろ本題へお話を進めたいと思います。

私にとって、最も身近なクラブ会員は父武重郎です。ですが、ロータリークラブで父が何をしているか、クラブに入る前にはとても想像つきませんでした。直近ではただただ、黙々と原稿を書いている姿しか見ていなかったからです。普段ほとんど会話の無い親子ですから、父が何をしているかなど話をしてくれることもなく、私も全く聞きませんでした。毎週例会にいそいそと出かけていく後ろ姿しか見ていなかったのも、クラブでの父の姿な

ど知る由もありません。

ですが、毎週欠かさず例会へと出席する父は、ロータリークラブが好きだったに違いありません。生活の中心がロータリークラブであり、好きというよりもはや「愛」だったように思います。

何が父を惹きつけたのか？私も入会してからそんなことを考えるようになりました。

直接父からその答えを聞くことは叶いません。私自身、ロータリークラブとは何をするところだろう、会員として自分は何をするべきであろうと自問自答しておりますが、答えは見つかりません。「ロータリーとは何ですか？」と会員皆様に尋ねれば、きっとその方それぞれ答えが違ってくるように思えるからです。

ロータリーは慈善団体ではなく、発展途上国の援助が目的の団体でもなく、人集めや資金集めが目的の団体でもない、ではその本質は何なのか？

分からなければ、その原点に戻ってみる必要があるかと思い、少し調べてみました。

ロータリーの創立者ポール・ハリスがなぜロータリークラブを創立したのか？

ポール・ハリスが戦前中国へ向かう船旅の途中日本に立ち寄ります。そして日本のロータリアンから大歓迎を受けます。その時、「あなたはなぜロータリーを始めたのですか？」という質問が日本のロータリアンから出ました。その質問に対し、彼は「淋しかったから」と答えたとのことでした。とても有名な話のことですので、ご存じの方も多いかと思いますが、ポール・ハリスはロータリーを創立する前、故郷から離れた大都市シカゴで弁護士として開業し、親戚や友人から遠く離れ、結婚もしておらず、非常に淋しい思いをしていたようです。「desperately lonely デェスパァラトリー（ひどく、猛烈に、やけくそになって、等 日本語訳）絶望的に淋しかった」と回顧録 My Road to Rotary にて彼自身が語

出席は会員の義務です。メイクアップを忘れずに！

第2グループ各RC 例会日・会場一覧

◇2259-4
志木 RC 会報

■朝霞キャロット RC (月) 19:00~20:00

シティ・イン北朝霞 3階ホール

事務局 048-470-6811

■志木柳瀬川 RC (木) 19:00~20:00

ふれあいプラザ会議室(丸井8F)

事務局 080-8914-2008

っています。

ある日彼は弁護士仲間二人と夜散歩をした際に、その友人が街で人に会うごとにファーストネームで呼び合うのを見てショックを受けたのです。かつての故郷での生活は皆友人であり、親しい仲間であったことを思い出し、そしてクラブを作ることを思いつくのです。大都会で自分と同じく淋しい思いをしている者がたくさんいるはず、そんな人たちがクラブを作ったら素晴らしいのではないかと考え、その数年後 1905 年 2 月に最初のロータリークラブを結成したのです。

ロータリーの最初の一步、それは友情を求めてだということです。

これには少々驚きました。

社会のため、地域のため奉仕をすることが理念として先にあるものだと思っていたからです。

その翌年に制定されたシカゴクラブの定款に 3 つの目的が記載されています。

- 1) 本クラブ会員の事業の利益の増大
- 2) 通常社交クラブに付随する親睦およびその他の特に必要と思惟する事項の推進
- 3) シカゴの最大の利益の推進、及び市民の誇りと忠誠とを市民の間に広めることとあります。(ロータリー情報ハンドブックより)

創立時は会員相互の事業の助け合いと親睦が目的だったと言えます。これは今日のロータリーの目的の一つである

「知り合いを広めることによって奉仕の機会とすること」

につながっているのだと思います。

ロータリアンの基本的な特徴として挙げられる価値観（中核的価値観）にも、1 親睦（fellowship）とあります。ここでは「親睦」と訳されていますが、フェローシップは友情、仲間、または分かち合うことといった意味もあります。ロータリークラブとは知人ではなく友人の集まりであることがきっと原則なの

ではないかと思います。

もちろん、「会員相互の親睦」だけで、今日までロータリークラブが続いているとは思っていません。ですが、我々が唱和する「四つのテスト」にも好意と友情を深めるかある通り、ロータリークラブの原理原則の一つであることは間違いありません。

今回の機会で、ロータリー情報ハンドブックや手続要覧を開きましたが、ロータリークラブとは一言で表せるほど簡単なものではなく、とても奥の深いクラブであると実感したと同時に、本質は実はシンプルであるのだとも感じました。

親父を惹きつけたクラブの魅力をほんの少し理解出来たのかなと感じておりますが、次回は「奉仕」について勉強しようと思います。

結びに、ポール・ハリスが回顧録の中で自問自答していた言葉を皆様にお伝えさせていただきます。

「ロータリーとは何か？ 何千人のロータリアンに聞けば、何千通りの答えが返ってくるだろう。しかし、もしロータリーが、より寛容で、より他人の良さを認め、より他の人と親しく交わり、助け合うようにしてくれるなら、そして、人生の美しさと喜びを発散し伝えるようにしてくれるなら、それが我々が求めるロータリーの全てである。それ以上ロータリーに何を求めることがあろうか」

以上ご清聴ありがとうございました。

●出席報告 出席向上副委員長 岸尾 守

会員数44名 出席義務者35名 免除者9名

本日出席	本日欠席	本日出席率
37名	2名	94. 87%

前々回 MU	前々回修正出席率	平均出席率
(4名中1名)	92. 50%	93. 53%